

長野県内に派生したスイス風建築とスイス的な風景（2）

● 河村 英和

前号の拙稿「長野県内に派生したスイス風建築とスイス的な風景（1）」では、まず信州・長野が「日本/東洋のスイス」と称されスイスに擬えられてきた文献事例として、登山家ウェストン Walter Weston の二つの旅行記（*Mountaineering and Exploration in the Japanese Alps* と *The Playground of the Far East*）から、ウェストンが長野県内の土地とスイスの景勝を比較して類似を指摘した箇所を抽出した。その後、スイスやチロルと長野県内の町との姉妹都市を確認しながら、諏訪地域（蓼科高原、白樺湖、車山高原、霧ヶ峰、姫木平、原村）、野沢温泉村、上高地、乗鞍高原、志賀高原にできた独語の屋号やスイス・チロル風の意匠を施した宿泊施設等を列挙し、時系列的にその傾向と流行の変遷をみた。

今回は JR 大糸線沿線に特化して、長野県内の町にできたスイス・チロル風を意識したデザインの建物を抽出・列挙してゆく。大糸線は長野県の松本駅と新潟県の糸魚川駅^{いといがわ}を結ぶ路線で、長野県側の沿線にはスイスやチロルをイメージした山小屋風の建物が多い。北から南へ移動し、小谷村、白馬村、大町市、安曇野市、松本市の順序で該当事例をみてゆく。なお、小谷村の友好都市^{おたり}にスイスやチロルの町はなく、白馬村の友好都市にはスキーが盛んな独オーバーヴィーゼンタール Oberwiesenthal (2002年提携) と塊レッチ Lech (2001年提携) がある。大町市は塊インスブルック Innsbruck (1985年提携) と友好都市関係にあり、松本市は、旧安曇村 (2005年に松本市となる以前の1972年に提携) とスイスのグリンデルヴァルト Grindelwald と姉妹都市となっている¹。それでは、小谷村に属する沿線エリア (南小谷駅から南へ) から始めるとする。

1. 小谷村

小谷村にある「白馬コルチナスキー場」の最寄り駅は、南小谷駅または千国駅であるが、両駅舎の意匠にスイスやチロルの要素はない。前者はなまこ壁と漆喰の和風古民家調で、後者は茶室のようなデザインだ。小谷村には「塩の道」とよばれる千国街道沿いにかつて

1 長野県「友好・姉妹提携」<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai-kouryu/sangyo/kokusai-kouryu/kouryu/yuko/index.html> (2022年1月17日閲覧)

は牛方宿が点在していたことから、和をモチーフにしたデザインの駅舎になったのだろう。

白馬コルチナスキー場という名は、1956年の第7回冬季オリンピック開催地の伊チロルのコルティーナ・ダンベッツォ Cortina d'Ampezzo に由来し、その大会で日本の猪谷千春選手が銀メダルを獲ったことにあやかった。この白馬コルチナスキー場の横にできたのが、「ホテルグリーンプラザ白馬」(1989年)で²、ロンドンのリバティ百貨店を巨大化したような英チューダー様式のハーフティンバー意匠であるが、ホテル付属のドッグハウス「PAWPAW」の建物は山小屋風だ。ホテルのほうも内外装に木材が多用され、エントランス部分に山小屋風を表現する荒石積みがあるので、英チューダー様式とともに、アルザスやチロルのヨーロッパの山間のハーフティンバーの民家も意識したようである。

ホテルグリーンプラザ白馬の近く、^{わらびだいら} 蔵平にある「わらび平山荘」はシャレー風意匠で、ドイツの亀の子文字風の書体で WARABIDAIRA SANSO と外壁に大きく書かれている。そのすぐ近くにも、「信濃荘」や「木戸花荘」のようなシャレー風の建物の民宿、里見地区のペンション・ロッジ村には、スイスの国旗をかつて掲げていたシャレー建築の「ペンション・アンデス」がある。チロル・スイス風を意識したであろう独語名の「ダボス」「コーボルトヒュッテ」「ケルン」「ハイジ」といった宿泊施設もこの里美地区にあり、現存するものとそうでないものが混在している。そこから^{つがいけ} 樽池方面に行った先には、スイス・チロル風をイメージした外観の「白馬アルプスホテル」(1973年開業、1996年改築)があり³、ここの外壁にも亀の子文字風の書体で HAKUBA ALPS HOTEL とある(図1)。ここはまだ白馬村ではなく小谷村内であるが、白馬ブランドを利用して、小谷村では屋号に「白馬」を付けることはよくあることだ。

「つがいけロープウェイ」の樽池高原駅周辺でも、シャレー風の宿泊施設が集中する。例えば「ホテル白馬ベルグハウス」(1977年開業⁴)、「ロッジ大樹」、「ゲレンデイン幸雪」、

2 同グリーンプラザホテルチェーンには、すでに似たようなハーフティンバー意匠の巨大な「ホテルグリーンプラザ上越」(1981年)と「ホテルグリーンプラザ軽井沢」(1984年)がある。日本各地に7件のホテルを擁する「安達事業グループ」(創業1958年)の傘下で、同チェーンを運営するのは、1977年設立の(株)安達・グリーンワールドである。ホテルグリーンプラザ「会社概要」<https://www.hgp.co.jp/company/>(2022年1月16日閲覧)

3 設計・施工は長野県の手澤ゼネコンの北野建設によるもので(ご教示下さった白馬アルプスホテルの相澤さんにはこの場を借り御礼申し上げます)、前号でふれた「ホテルグランフェニックス奥志賀」も同社によって建設された。1973年の開業時は、三菱信託銀行主体で設立された株式会社「ダイヤモンドシャトー」による分譲ホテルで、客室は和洋折衷で2棟目は翌1974年に完成している。「ダイヤモンドシャトーのうちだした分譲ホテル第一弾:白馬アルプスホテル」『月刊ホテル旅館』1975年2月号、p.71;1996年に改築。るぶトラベル「白馬アルプスホテル(Hakuba Alps Hotel)」による。

4 開業年は、るぶトラベル「星降る高原の小さなホテル白馬ベルグハウス」による。

「CHALET HAKUBA」、[ラ・ネージュ] (1968年開業⁶) がシャレー風の建物で、半切妻屋根とハーフティンバーでチロル風を表現したのが「樽池モンブラン」と「ペンションサンシャイン白馬」で、ハーフティンバー意匠の「Snowflake Chalet」もある。樽池高原スキー所付近には、シャレー建築ではないがスイスのベルニナ峠 Passo del Bernina の名を屋号にした「ホテルニューベルニナ」(1975年開業⁶)、ハーフティンバー意匠でチロル風を演出した「リゾートホテル ラ・フォーレ白馬」(1975年築、1995年改築⁷) がある。

19世紀スイスの児童文学『ハイディ Heidi』を原作とする日本のTVアニメ『アルプスの少女ハイジ』が放映されたのは1974年であるが、小谷村と白馬村での宿泊施設でスイスやチロルを意識したデザインの建物が増えているのも1970年代後半以降だ。スイスのイメージと直結するシャレー建築が、山岳リゾートらしさを演出するアイコンとなるのは分かり易いが、ハーフティンバー建築はスイスだけでなくチロルやアルザスの民家や、英チューダー様式のコテージにもみられ、山岳のイメージと完全一致するわけではない。にもかかわらず、白馬にはシャレーとともに英チューダー様式風のハーフティンバー意匠の宿泊施設も少なくなく、その増加も同じく1970年代後半以降である。おそらくそれは、アニメ「ハイジ」と同年の1974年放映のTVドラマ『高原へいらっしゃい』の舞台が、英チューダー様式のハーフティンバー建築の「旧・ホテル八ヶ岳高原ヒュッテ」だったことと関係があるのではないか。「ホテル八ヶ岳高原ヒュッテ」の建物は、東京・目白にあった尾張



図1 (左)：小谷村乗鞍高原にある「白馬アルプスホテル」(2020年8月、筆者撮影)

図2 (右)：白馬村岩岳山頂にあるアニメ「アルプスの少女ハイジ」のオープニング映像をイメージした有料ブランコ (2020年8月、筆者撮影)

5 「Hôtel de la Neige HIGASHIKAN」 <https://www.laneige-higashikan.com/concept.php> (2022年1月17日閲覧)

6 開業年は、るぶトラベル「ホテルニューベルニナ」による。

7 築年・改築年は、agoda「リゾートホテルラフォーレ白馬 (Resort Hotel La Foret Hakuba)」による。

徳川邸（1934年築）を1968年に移築したものであり、山岳建築ではないのにもかかわらず八ヶ岳高原のシンボリック的存在となったため、英チューダー様式の建物が高原リゾートらしさを表現するものと誤解され、それ以降、日本各地の山岳・高原リゾート地のホテルやペンションに英チューダー様式風のものが採用されることが増えたのだろう⁸。

2. 白馬村

小谷村を抜けた大糸線最初の白馬村内の駅は「信濃森上」で岩岳に近い。岩岳はもともとスキー場が有名だったが、近年はグリーンシーズンの観光にも力が注がれ、山頂には、TVアニメ「アルプスの少女ハイジ」の主題歌映像に登場するブランコをイメージした「Yoo-Hoo! SWING」という有料ブランコが、2020年9月に設置された（図2）⁹。岩岳山頂へアクセスするゴンドラリフト「ノア」の乗り場の屋根の傾斜角度はシャレー風で、その近くには、欧風屋号のシャレー風ペンション「岩岳アルペンブリック Alpen Blick 入山登^{いりやまと}」や「白馬モンビエ Monbien」（1981年築、2011年改築¹⁰）があり¹¹、「リンデンバウム Lindenbaum」（1992年）にいたっては、17世紀チロルの民家の雰囲気表現できるよう、オーストリア製の彩色工芸家具や陶器タイルの暖房・照明を取り揃え、建物はスイス・エンガディン Engadin 地方スクオル Scuol にある下エンガディン博物館 Museum d'Engiadina bassa（18世紀初頭に増築されたルネサンス時代の古民家）をモデルにした。スグラフフィート（引っ掻いて描く壁画）も再現し、馬・山羊・羊などの家畜の絵が外壁に描かれている（図3）。海外の建築を日本で再現する精工さへの追求は、バブル期以降にしばしばみられる現象ではあるが、「リンデンバウム」の場合とはくに際立っていて、内部は白漆喰壁で、電気の配線も地下化してヨーロッパの伝統建築の工法と景観美を尊重し¹²、着想

8 河村英和「日本の山岳・高原リゾート地における疑似スイス風シャレー建築と英国風・チロル風ハーフトインバー様式」『観光コミュニティ研究』跡見学園女子大学観光コミュニティ学部紀要第1号、2022年、pp.34-35

9 「ハイジの気分、山頂ブランコ 観光客に人気 白馬・岩岳」『朝日新聞』長野県版朝刊、2020年9月4日、p.19

10 築年・改築年は、agoda「白馬モンビエ (Hotel Hakuba Montbien)」による。現在は閉業している。

11 「信州・白馬岩岳リンデンバウム」の公式サイト <https://hakuba-lindenbaum.com/>（2021年1月17日閲覧）

12 創業者の丸山雅之・光代ご夫妻は、建物をデザインするにあたり、松味利郎『壁絵のある家く2〉スイス・オーストリア』（京都書院、1988年）に載っている下エンガディン博物館の写真と、ヨーロッパの生活文化の専門家の資料を参照しながら、尺貫法ではなくインチでの設計を依頼したとのこと。懇切丁寧にご説明下さった丸山ご夫妻にはこの場を借り篤く御礼申し上げます。

源がシャレー建築でない点もユニークで異彩を放っている。なお、その向かいには英チューダー風の建物を改装した「Hakuba Brew Pub」が近年開業しており、洒落た一画となった。

さらに姫川水系の松川を超え、信濃森上駅から白馬駅へ向う大糸線の線路と並行する国道148号線沿いには、元ペンションと思われる建物でチロル風の尖塔屋根と出窓とスパニッシュ瓦葺が折衷された焼き肉店「牛緒」、スイスの村グリンデルヴァルト Grindelwald に因んだ屋号でシャレー風の洋食店「グリンデル」があり、白馬駅前広場にはハーフティンバー意匠の土産店が何件も並んでいる。白馬駅から国道148号線を南下しすぐ左手にあるガソリンスタンド「信光石油」には山小屋的な切妻の架構物があり、同国道沿いには、他にも山小屋風の切妻屋根がある北城の「シェル石油」やシャレー風の架構が付いた神城の「出光石油」のように、山小屋風建築を意識してデザインされたガソリンスタンドが多い。



図3(左)：スイス・エンガディン地方の伝統民家を再現した白馬村北城のペンション「リンデンバウム」(2020年8月、筆者撮影)



図4(右)：奥チロルのシャレー式民家ペンションから着想された白馬八方のホテル・ペンション「アルピーヌ」(2020年8月、筆者撮影)

JR白馬駅を起点に延びる長野県道322号(白馬岳線)沿いにもシャレー風の建物が並ぶ。例えば、現代建築でもシャレー風意匠の系譜上にあるのが、アウトドア用品店「patagonia®」の店舗(2013年¹³)と「snowpeak LANDSTATION HAKUBA」(2020年)だ。後者は隈研吾による設計で、屋根の傾斜と外郭のフォルムは「白馬三山のシルエットを意識した」とのことだが¹⁴、隈建築らしい木材の組み物が見える店舗の切妻の傾斜角度はシャレー建築を

13 patagonia®「パタゴニア白馬/アウトレット」https://www.patagonia.jp/patagonia-hakuba-outlet-japan/store_164327220.html(2022年1月16日閲覧)

14 隈研吾建築都市設計事務所「snowpeak LANDSTATION HAKUBA」<https://kkaa.co.jp/works/architecture/snowpeak-landstation-hakuba/>(2022年1月16日閲覧)

彷彿とさせる。さらに、同県道沿いのマンション「大洋白馬ハイツ」(1975年築)のベランダ手すりはスイス・チロル風の飾りが付いた木製で、「旅館丸家(まるや旅館)」はシャレー風建築となっている。白馬駅付近の建物では、大型スーパー「エーコープ(A-Coop)」がシャレーのようなフォルムと切妻屋根で、大町警察署白馬村交番(旧・白馬幹部警察官派出所)(1993年¹⁵⁾)もシャレー建築となっている。

2-1. 白馬八方エリア

白馬八方バスターミナル付近(住所は北城)のスイス・チロル風を意識した建物では、「八方インフォメーションセンター」、「八方文化会館(白馬・山とスキーの総合資料館)」、「ホテル対岳館」(1993年¹⁶⁾)、ホテル「ベルナーオーバーラント&喫茶チロル」が挙げられる。スイスのベルナー・オーバーラント Berner Oberland に奥・伊の山岳地帯ティロール Tirol を掛け合わせた屋号には、日本人のスイスとチロル(スイスは含まない)への憧れの「混合」が表われていて、建築デザインにおいても日本各地の山岳・高原リゾートでスイスとチロルの混同現象が起きていることにも通じている。近くには、奥チロル、アーベルク近郊のシャレー建築をモデルにしたホテル・ペンション「アルピーヌ Alpine」(1983年築¹⁷⁾)がある(図4)。もとは「岳明館」(1940年代前半創業)という茅葺の民宿であったが、3代目社長の丸山貢一氏が、1974年に奥ザンクト・クリストフ・アム・アーベルク St. Christoph am Arlberg にあるスキー学校「ブンデススポーツハイム Bundessportheim (現・Bundes Ski Akademie)」に留学中、当地の歴史的建造物の民家ペンションに感銘を受け、屋号もアルプスの伝説アルピーヌと変更して新築した。八方尾根スキー場の歴史とともに歩む宿で、現在は4代目が引き継いでいる¹⁸⁾。

さらに八方温泉街には、シャレー風のホテル「おおね(大根館)」¹⁹⁾(図5)と「あらや旅館」(1990年築²⁰⁾)、独語を使った屋号の「ホテル・ヴァイサーホフ八平²¹⁾」や、切妻屋根

15 「白馬の歩み」編纂委員会編『白馬の歩み(白馬村誌)第5巻写真編』白馬村、1994年

16 創業年は玄関に架かけられた、スキー板とザイルとぶどうの蔓をあしらったチロル風の鋳物看板に書かれており、バーラウンジの名称は独語「シュタムティッシュ Stammtisch」となっている。ホテル「対岳館」<https://www.taigakukan.jp/>(2022年1月16日閲覧)

17 ホテル・ペンション「アルピーヌ」<https://www.janis.or.jp/users/hpalpine/>(2022年1月16日閲覧)

18 「アルピーヌ」の創業や建物にまつわる歴史をこころよく教えてくださった丸山貢一ご夫妻には、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

19 昭和30年代ぐらいの築年であるが、外装だけ長野オリンピック開催前までにスイス風のファサードデザインにした(2022年2月27日の「大根館」さんとの電話調査による)。

20 築年は、トクー!(ToCoo!)「白馬八方温泉あらや旅館」による。

の破風板部分に木製飾りを付けてシャレー風を表現した飲食店舗「マウント Mount」もある。北城には他にもシャレー建築風の外観をもつ「ホテル五龍館」（1979年築、1994年改築²²）や、ハーフティンバーとシャレー風を組み合わせた意匠で、独語名のホテル「ローゼンハイム Rosenheim 白馬」（1984年築、1997年改築²³）がある。八方尾根スキー場近くには、2件隣り合うことによってスイスカチロールのような景観をつくりだしているシャレー風のペンション「ロンドール Rond Or」と、杏子^{あんず}を意味する独語名の「マリレン（現・MARILLEN HOTEL by Hakuba Hotel Group）」や、スイスの名峰ヴァイスホルン Weisshorn の名を付けたシャレー風ロッジ「ワイスホルン」（1963年創業²⁴）があり、ゴンドラリフト近くには、英チューダー調の「ゴンドラホテル（旧・モンシャトル北城）」、シャレー風では、「Syuzan（秀山荘）」と「プチホテル志鷹」（1970年築、1993年改築²⁵）がある。なお、八方尾根の白馬ジャンプ競技場前にある「山のホテル」（1995年築、1998年改築²⁶）もハーフティンバー意匠であるが、こちらは英国風ではなくチロール風に近い。

以上、白馬八方エリアでは、とくに1990年代からシャレー風あるいはハーフティンバー意匠での宿泊施設の改築・新規開業が増加していることが分かる。その理由は、八方尾根スキー場が1998年の冬季オリンピック会場となることが、1991年の第97回国際オリンピック委員会総会で判明したからだ。今も昔も白馬八方エリアの最高級ホテルとして君臨するのは「白馬東急ホテル」であるが、現建物は1996年築で²⁷、やはり1998年の長野オリンピック開催に合わせて新築されたものだ。日本の古民家とヨーロッパの山小屋風を融合したようなデザインとなったが、1959年の創業時は RC 造のシャレー意匠建築だった。1956年冬季オリンピックで日本がスキーで銀メダルを獲得したことに誘発され白馬村の開発が行

21 建物の意匠はシャレー風ではないが、玄関部分にはドイツの亀の子文字風の書体で独語名「Hotel Weisser Hof Happei」と書かれ、マンサード屋根の形状で欧風を表現し、各窓の下にはヨーロッパ山間でよくある、花を活ける木製のフラワーボックスが備えられている。

22 築年・改築年は、るるぶトラベル「ホテル五龍館」によるが、創業は1933年で、一代目にあたる中村實（みのる）が登山客をを自宅に泊めて民宿をはじめたことに遡る。ホテル五龍館「採用情報：ホテル五龍館について」<https://www.goryukan.jp/recruit>（2022年1月16日閲覧）

23 築年・改築年は、るるぶトラベル「リゾートホテルローゼンハイム白馬（Rosen Heim Hakuba）」による。

24 創業年はヨーロッパの紋章風の現在のロゴに書き込まれている。ワイスホルン公式サイト <https://weisshrn.com/>（2022年1月16日閲覧）

25 築年・改築年は、るるぶトラベル「プチホテル志鷹（Petit Hotel Shitaka）」による。

26 築年・改築年は、るるぶトラベル「山のホテル（Yamano Hotel）」による。

27 三浦明義「ただ今開業準備中（140）白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1996年9月号、p.142；高瀬信夫「新作ホテルの誌上プレビュー①：白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1997年3月号、pp.50-51

われ、ホテルの設計は、巨匠ル・コルビュジェ Le Corbusier に師事し渡仏経験のある建築家、坂倉準三（1901-1969）に託された²⁸。1967年にはタワー状の新館が増築され、俗化してきた軽井沢を避けた客が避暑にここに来ることが増えたという²⁹。本格的なシャレー建築で白馬のランドマーク的存在だった白馬東急ホテルは1994年に解体され、1996年の再建では坂倉準三のデザインを踏襲したと当時のホテル雑誌には書かれているが³⁰、全く似ていない。そのためか現在、白馬東急ホテル近くの「和田野の森」にもスイス・チロル風を意識した建物はなく、ハーフティンバー意匠の「アーリアホテル Aria Hotel」（閉業）と、英チューダー様式風のハーフティンバー建築の「白馬リゾートホテル ラ・ネージュ本館」（1983年開業³¹）があるぐらいだ。



図5(左)：八方温泉街のシャレー風のホテル「おおね（大根館）」(2020年8月、筆者撮影)

図6(右)：19世紀チロル風のペンション「東山白馬（旧・アルル）」(2020年8月、筆者撮影)

2-2. 白馬エコーランドエリア

白馬村の宿泊施設でよく好まれている建物デザインは、スイス・チロル風のシャレー建築と、欧風や英チューダー調のハーフティンバー意匠に二分され、互いに共存している。白馬エコーランド地区（住所は北城）では、ハーフティンバー意匠の英チューダー様式とスイス・チロル風シャレー建築の混在具合のコントラストはさらに顕著だ。

28 三橋謙一「新設の白馬東急ホテル拝見」『ホテルレビュー』1960年4月号、pp.8-11；藤木忠善「白馬東急ホテル/坂倉準三建築研究所」『建築文化』1960年3月号、pp.25-31；多賀谷義雄「白銀に映えるアルプス風の建物—信州白馬・白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1965年2月号、p.71

29 編集部「企業訪問—白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1969年3月号、p.98

30 高瀬信夫、前掲書、1997年、p.49

31 「Hôtel de la Neige HIGASHIKAN」<https://www.laneige-higashikan.com/concept.php>（2022年1月17日閲覧）

「シャレーホテルハイジ・ホフ Chalet Hotel Heidi Hof」(1978年築、1999年改築³²)は、その屋号通り、スイスシャレー風の山小屋建築である一方、その近くには英チューダー調ハーフティンバー意匠の「シェイクスピアホテル The Shakespeare Hotel」(1992年創業³³)がある。このホテルは茅葺のイングリッシュコテージも付随し、すぐ隣には英国風ハーフティンバー意匠の飲食店「dinning bar Tomatino」もある。さらに「シェイクスピアホテル」と同じ通りには、19世紀チロルの民家のような、木製破風飾りの付いたハーフティンバー意匠のペンション「東山白馬(旧・アルル)³⁴」があり(図6)、その通りの向かい側にはスイスの伝統民家のような建物で、スイスのベルニナ峠に因んだ屋号の「ペンション・ベルニナ Bernina」もある。やや離れている場所にあるが同エコーランドエリアには、欧風のハーフティンバー建築で、亀の子文字で書いた独語の看板をもつ仏料理レストラン兼ホテル(オーベルジュ)「トロイメライ Träumerei」(1982年築、1996年改築³⁵)もある。

2-3. 五竜・神城エリア

JR大糸線を白馬駅から南下した先、白馬村に属する飯森駅と神城駅は、どちらも白馬五竜スキー場の最寄り駅で、神城駅のほうは1997年に山小屋風の外観デザインで改築された³⁶。しかし五竜スキー周辺のエリアでは、シャレー建築よりハーフティンバー調が好まれているようで、とくに英チューダー様式風のハーフティンバー意匠の宿泊施設が目立つ。

神城駅と白馬五竜高山植物園へアクセスできるゴンドラ「テレキャビン」乗り場の間に形成されているペンション村には、欧風ハーフティンバー意匠の「ホテルモンブラン白馬」(1988年築、1990年改築³⁷)、「ホテル セジュールミント」(1992年築、1996年改築³⁸)、「ペンション ちゃうちょう」(1982年³⁹)があり、他にも英チューダー様式風のハーフティン

32 築年・改築年は、るるぶトラベル「シャレーホテルハイジ・ホフ (Chalet Hotel Heidi-Hof)」による。

33 開業年はオフィシャルサイトのトップページに記載されている。シェイクスピアホテル <https://hakuba-shakespeare-hotel.com/> (2022年1月16日閲覧)

34 建物は1980年代の築で、2017年にペンション「アルル」(2代目オーナー)は閉業した。現3代目オーナーによって改名されたペンション「東山白馬」になってからは、1階には飲食店「炭火串焼とり克」が入居している(2022年1月27日のペンション「東山白馬」さんとの電話調査による)。

35 築年・改築年は、るるぶトラベル「レストラン&ホテル トロイメライ (Restaurant & Hotel Träumerei)」による。

36 「地元が事業費、神城駅が開業 白馬村のJR大糸線/長野」『朝日新聞』長野県版朝刊、1997年12月13日

37 築年・改築年は、るるぶトラベル「ホテルモンブラン白馬 (Hotel Mont Blanc Hakuba)」による。

38 築年・改築年は、るるぶトラベル「ホテル セジュールミント (Hotel Séjour Mint)」による。

39 開業年は、Trip.com「ペンション ちゃうちょう (Pension Chauchau)」による。

バー意匠のリゾートホテル「レディダイアナ&セントジョージ Lady Diana & St. Georges」(1984年⁴⁰)がある。かろうじてシャレー風の建物なのは、テレキャビン乗り場近くにある「ホテルアベスト白馬リゾート(旧・ホテルシャレータケダ)」(1993年⁴¹)、「ロッヂ五竜」(1973年⁴²)、「ホテルサンマルテ」(現建物の築年不明、1940年創業⁴³)ぐらいである。一方、エイブル白馬五竜スキー場近くには、存在感ある英チューダー様式風のハーフティンバー意匠の「白馬サンバレーホテル」(1992年開業、2011年改築⁴⁴)とその別館「白馬サンバレーホテルアネックス」(1989年⁴⁵)が建っている。

3. 大町市

JR大糸線をさらに南下してゆくと車窓右手に3つの湖が、青木湖、中綱湖、木崎湖の順で現れる。夏季の白馬の暑さは陰しく避暑地らしい涼しさはあまり期待できないのだが、これらの湖を通過するにつれ標高が上がって気温も下がり、大町市に入ると避暑に相応しい風が吹いてくる。このアルプスの山々に囲まれて湖が連なる景色と気候は、スイスのエンガディン地方のそれを彷彿とさせ、じっさい『日本風景論』の著者で知られる地理学者の志賀重昂^{しげなか}は、この3つの湖のある景観を「日本の瑞西^{スイス}」と呼んでいた⁴⁶。

湖を超えた先にある信濃大町駅は、立山黒部アルペンルートの玄関口である。そのため駅舎は、欧風半切妻屋根のある「山小屋風に」2010年に改装された(図7)⁴⁷。ここは、1963年に完成した黒部ダム、通称「くろよん」(黒部川第四発電所のダム)観光のアクセスの起点でもある。信濃大町駅近くの大町温泉郷エリアには、黒部ダム完成翌年の1964年に開業した山小屋風の外観をした「黒部観光ホテル」があり、そのすぐ近くにはヨーロッパの山小屋のような外郭フォルムをしたモダンな木造野外舞台「森林劇場」(1983年築、2021

40 開業年は、Trip.com「リゾートホテルレディダイアナ&セントジョージ(Lady Diana & St. Georges)」による。

41 現屋号への変更は2015年。旧・ホテルシャレータケダの開業年は、るるぶトラベル「ホテルアベスト白馬リゾート(Hotel Abest Hakuba Resort)」による。

42 開業年は、宿Clip「ロッヂ五竜」による。

43 開業年は、トクー!(ToCoo!)「白馬の料理宿ホテルサンマルテ」による。

44 開業年とリニューアル年は、Trip.com「白馬サンバレーホテル(Hakuba Sun Valley Hotel)」による。

45 開業年は、るるぶトラベル「白馬サンバレーホテルアネックス(HAKUBA SUN VALLEY HOTEL AN-NEX)」による。

46 志賀重昂「世界の奇観」『志賀重昂全集第5巻』志賀重昂全集刊行会、1928年、pp.388-389

47 「大糸線、観光で活性化狙うー魅力発信へ知恵集結を(信州リポート)」『日本経済新聞』2009年9月16日(地方経済面長野)、p.3

年解体⁴⁸⁾もあった。大町温泉郷エリアで、欧風山小屋をイメージさせる建物はその2件ぐらいで、むしろ黒部ダムの建設工事で使用したトロッコ電車の観光路線の起点となる富山県の宇奈月温泉のほうが、シャレー風やハーフティンバー意匠の建物が集中している。

なお大町市常盤（大糸線の最寄り駅は安曇沓掛^{あづみくつかけ}）には、社名はスイス風ともいえる芳香化粧品メーカー「アルペンローゼ Alpenrose」の庭園型工場「ラ・カスタ La Casta」があるが、その建物は洋風ではあるものの山岳的イメージを喚起させる要素はない。



図7(左)：山小屋風意匠で2010年に改築されたJR信濃大町駅舎（2020年8月、筆者撮影）

図8(右)：碌山美術館の旧収蔵庫（左）と受付と売店の建物（右）（2021年3月、筆者撮影）

4. 安曇野市

大糸線を南下した大町市内最後の駅が「安曇沓掛」で、その次の駅「信濃松川」からは安曇野市内となる。信濃松川駅から松本へ向かって梓橋駅までが安曇野市に属するが、信濃松川駅は2010年にモダンな山小屋風デザインで改築され⁴⁹⁾、規模は小さいが梓橋駅も2015年の改築でハーフティンバーと山小屋風が混合した外観となった。安曇野市内で大糸線沿線にあるスイス的ともいえる建物としては、まず穂高駅（ただしこの駅舎は山小屋風ではなく和風建築である）を最寄りとする、アルプスの村の教会のような意匠で知られる「碌山美術館^{ろくざん}」（1958年開館）が挙げられる。「東洋のロダン」と謳われた東穂高村出身の明治期の彫刻家、荻原守衛^{もりゑ}（号が碌山）（1879–1910）の作品を展示するための美術館で、メインの建物となる教会風の「碌山館」（1958年、今井兼次設計、清水建設施工）は多く

48 「大町の森林劇場、維持困難 市、本年度中に解体へ」『中日新聞』電子版、2021年5月13日配信

49 「JR、大糸線6駅改装、豊科や信濃大町、来秋の観光企画前に。」『日本経済新聞』長野版、2009年8月13日、p.3

の文献に詳しいが、国籍不明で中欧・東欧や北欧など色々な要素が混在した独特の山小屋風意匠となっている「グズベリーハウス」(現・休憩所、旧・展示室)(1968年)と、かつての「収蔵庫」(1970年)についてはあまり知られていない⁵⁰。どちらの建物も彫刻家の笹村草家人(1908-1975)のデザインによるもので⁵¹、鉄道の枕木を払いさげてもらい建築材料として使い、近隣の学校の先生や生徒らの協力のもとで建設された。建物内外の木彫装飾は地元の横山拓衛(1921-1976)によるところが大きく、ヨーロッパの民芸のような木製家具のほとんどが彼の手作りである。現在のグズベリーハウスの床はレンガであるが、当時は丸太を輪切りにしたものを敷き詰めていた。現在の受付と売店の建物も山小屋風建築(1997年)で、これは二人の手は入っていないもののデザインは踏襲されている(図8)。また、穂高の東光寺の近くにある横山拓衛の生家は和風建築であるものの、ディティールの外壁板の木彫などにグズベリーハウスと似た装飾様式が垣間見られる⁵²。

大糸線を南下して穂高駅の次にある柏矢町駅^{はくやちよう}の最寄りには、「田淵行男記念館」、「あずみのコミュニケーション・チロル」、農産物販売所の「安曇野スイス村ハイジの里」があり、いずれも山小屋風意匠の建物である。大糸線のその次の豊科駅(2010年)も欧風ハーフティンバー意匠の山小屋風で、この駅近くにある「豊科認定こども園」もアルプス風デザインに近年改築された。以上これら5件の施設については、本学マネジメント学部の紀要(第32号、2021年⁵³)ですでに触れたので本稿では割愛する⁵⁴。

5. 松本市

大糸線の南側起点となるのは松本駅であるが、北アルプスの山々を背にする松本では、信州の民芸・工芸(松本民芸家具、ステンドグラス、金物、版画など)をハーフティンバー建築とコーディネートする文化があり、その事例が市内で散見される。本稿では白馬村を

50 碓山美術館の碓山館以外の建物群の歴史はまだ文書化されておらず、学芸員の武井敏氏からのご教示で、初めてその建設の顛末を知ることができた。氏にはこの場を借り深く御礼申し上げます。

51 笹村草家人の山梨(甲州桐原)の自宅も山小屋風であるが、こちらは和風の要素が強い。碓山美術館学芸員の武井敏氏によれば、現在は空き家になっているという。

52 横山拓衛の生家の前には「無私風来の自由人(臼井吉見評)」と書かれた1997年に建った石碑がある。

53 河村英和「日本各地で派生した『スイス村』計画の変遷と現状」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要第32号』2021年、pp. 82-85

54 豊科エリアで付け加えるとしたら、「勤労者総合体育館」がアルプス風の半切妻屋根で、豊科の「安曇野市豊科郷土博物館」(1979年)が農家風屋根モチーフのモダニズム建築、その隣にあるカラオケ屋「ビッグエコーあづみ野豊科店」がアルプスの家を意識したようなややメルヘンチックな建物となっていることだろうか。

中心に、ハーフティンバー意匠とシャレー風建築の宿泊施設が共存してきた事例を多数みてきたが、その傾向は長野県全域のみならず日本各地の山岳・高原リゾートにも確認できる。その原因として、TVドラマ『高原へいらっしゃい』のロケ地となった英チューダー様式のハーフティンバー建築の尾張徳川邸が高原リゾートのイメージと結びついた可能性をすでに挙げたが、あともう二つの原因をここで追記したい。一つ目はハーフティンバー（木骨造）建築は日本各地の山間の古民家にもみられるため、ハーフティンバーが洋風であっても日本の風土や和の要素とも合わせやすかったこと⁵⁵、そしてもう一つがここで述べる信州特有の理由で、松本民芸家具とハーフティンバー意匠との相性の良さである。

松本には、松本民芸家具を多用した「松本ホテル花月」（1887年創業）があり、旧館客室の一部は英チューダー風のハーフティンバーの内装が施されている。同ホテルの喫茶室は、中央構材工業（現・松本民芸家具）の創始者池田三四郎（1909-1999）がデザインしたもののだが⁵⁶、壁にかかった額絵の一つに「イギリスの仕立屋」と題してチューダー様式の建物を描いたものがある。また、市内の有名なハーフティンバー建築には、老舗フランス料理店の「鯛萬^{たいまん}」（1950年）があり、アルザス風のハーフティンバーの内外装で、家具は松本民芸家具で統一されている⁵⁷。他にも松本には、英チューダー様式風ハーフティンバー意匠のファサードを持つ中町通りの洋品店「ONTADE」があり、松本駅前の近くにある「共同ビル」（1978年築）も折衷的な欧風ハーフティンバー風装飾がファサード最上階部分にみられる。

今回挙げた松本の関連事例の数は少なくまだ不十分だが、長野県の山岳・高原リゾートの雰囲気演出するには、スイス・チロル風のシャレー建築だけでは飽き足らず、ハーフティンバー建築（和の古民家の木骨造から、欧風各国風のハーフティンバー意匠まで）までもが参戦してくる理由の一つには、北アルプスを背にする山岳都市松本が生んだ民芸家具や工芸がハーフティンバー建築と調和し易い背景もあるのではないだろうか。

（つづく）

【謝辞】

本研究は、2020年度跡見学園女子大学特別研究助成費を受けて実施された研究発表の一部

55 河村英和、前掲書、2022年、p. 32

56 松本ホテル花月 <https://matsumotohotel-kagetsu.com/>（2022年1月17日閲覧）

57 レストラン鯛萬 <http://www.taiman.co.jp/about.html>（2022年1月17日閲覧）

である。ここに記して心より謝意を表します。

※本誌前号（第15号）掲載の拙稿の謝辞（p.62）の中に誤記がありました。

（誤）跡見学園後援会助成金による特別研究助成→（正）跡見学園女子大学特別研究助成費
この場を借りて訂正しお詫びいたします。

参考文献（時系列順）

志賀重昂「世界の奇観」『志賀重昂全集 第5巻』志賀重昂全集刊行会、1928年、pp.388-389

藤木忠善「白馬東急ホテル/坂倉準三建築研究所」『建築文化』1960年3月号、pp.25-31

三橋謙一「新設の白馬東急ホテル拝見」『ホテルレビュー』1960年4月号、pp.8-11

多賀谷義雄「白銀に映えるアルプス風の建物—信州白馬・白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1965年2月号、pp.70-72

編集部「企業訪問—白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1969年3月号、pp.97-101

「ダイヤモンドシャトーのうちだした分譲ホテル第一弾：白馬アルプスホテル」『月刊ホテル旅館』1975年2月号、pp.72-75

「白馬の歩み」編纂委員会編『白馬の歩み（白馬村誌）第5巻 写真編』白馬村、1994年

三浦明義「ただ今開業準備中（140）白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1996年9月号、p.142

高瀬信夫「新作ホテルの誌上プレビュー①：白馬東急ホテル」『月刊ホテル旅館』1997年3月号、pp.49-52

「地元が事業費、神城駅が開業 白馬村のJR大糸線／長野」『朝日新聞』長野県版朝刊、1997年12月13日

「JR、大糸線6駅改装、豊科や信濃大町、来秋の観光企画前に。」『日本経済新聞』長野版、2009年8月13日、p.3

「ハイジの気分、山頂ブランコ 観光客に人気 白馬・岩岳」『朝日新聞』長野県版朝刊、2020年9月4日、p.19

「大町の森林劇場、維持困難 市、本年度中に解体へ」『中日新聞』電子版、2021年5月13日配信

河村英和「長野県内に派生したスイス風建築とスイス的な風景（1）」『コミュニケーション文化 第15号』（跡見学園女子大学文学部コミュニケーション文化学科紀要）、2021年、pp.45-64

河村英和「日本各地で派生した『スイス村』計画の変遷と現状」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀

要第32号』2021年、pp. 63-99

河村英和「日本の山岳・高原リゾート地における疑似スイス風シャレー建築と英国風・チロル風ハーフトインバー様式」『観光コミュニティ研究』跡見学園女子大学観光コミュニティ学部紀要第1号、2022年、pp. 23-41

参考サイト

patagonia®「パタゴニア 白馬／アウトレット」https://www.patagonia.jp/patagonia-hakuba-outlet-japan/store_164327220.html (2021年1月16日閲覧)

隈研吾建築都市設計事務所「ARCHITECTURE (作品紹介)」<https://kkaa.co.jp/works/architecture/> (2022年1月16日閲覧)

シェイクスピアホテル <https://hakuba-shakespeare-hotel.com/> (2022年1月16日閲覧)

「信州・白馬岩岳リンデンバウム」<https://hakuba-lindenbaum.com/> (2022年1月16日閲覧)

長野県「友好・姉妹提携」<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai-kouryu/sangyo/kokusai-kouryu/kouryu/yuko/index.html> (2022年1月17日閲覧)

松本ホテル花月 <https://matsumotohotel-kagetsu.com/> (2022年1月17日閲覧)

ホテルグリーンプラザ「会社概要」<https://www.hgp.co.jp/company/> (2022年1月16日閲覧)

ホテル五龍館「採用情報：ホテル五龍館について」<https://www.goryukan.jp/recruit> (2022年1月16日閲覧)

ホテル「対岳館」<https://www.taigakukan.jp/> (2022年1月16日閲覧)

「Hôtel de la Neige HIGASHIKAN」<https://www.laneige-higashikan.com/concept.php> (2022年1月17日閲覧)

ホテル・ペンション「アルピーヌ」<https://www.janis.or.jp/users/hpalpine/> (2022年1月16日閲覧)

レストラン鯛萬 <http://www.taiman.co.jp/about.html> (2022年1月17日閲覧)

ワイスホルン公式サイト <https://weisshrn.com/> (2022年1月16日閲覧)

ホテル予約サイト「agoda」<https://www.agoda.com> (2022年1月16日閲覧)

ホテル予約サイト「トクー！（ToCoo!）」<https://www.tocoo.jp> (2022年1月16日閲覧)

ホテル予約サイト「宿Clip」<https://www.clipit.jp> (2022年1月16日閲覧)

ホテル予約サイト「るるぶトラベル」<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/> (2022年1月16日閲覧)

ホテル予約サイト「Trip.com」<https://jp.trip.com> (2022年1月16日閲覧)